

第4学年社会科指導案

日 時 平成18年9月15日(金)5校時
児 童 男子7名 女子3名 計10名
指導者 佐藤 朋広

- 1 単元名 「昔のくらしとまちづくり」
 - 1 昔のくらし

2 単元について

(1) 教材について

「昔のくらしとまちづくり」の学習は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の目標(2)「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」と(3)「地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。」をねらいとしている。その内容は、(5)「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」である。

その中で、小単元1「昔のくらし」は、昔の道具を調べる活動を通して、現在の自分たちの生活が祖先の努力によって成り立っているという歴史的背景に関心を持ち、人々の知恵や工夫に気づいたり、地域の人々の生活の変化や願いを考えたりする学習である。また、地域に残る文化財や年中行事を調べる活動を通して、地域の歴史を伝えるとともに、保存に取り組んでいる人々の努力や願いを考える学習でもある。洗濯板やランプなどの生活に関する道具の変遷を実際に見たり使ったりすることや、地域に残る早池峰神楽やあんどんまつりについてゲストティーチャーとのふれあいを通して学習することにより、地域の人々の生活がどのように変わってきたのかを考えたり、地域の人々の願いに気付いたりすることができるようにしたいと考える。

(2) 児童について

児童は、3年生で地域の地理的環境、産業や消費の様子などを学習している。また、4年生になって、地域の交通安全や火災防止の取り組み、飲料水や廃棄物の処理について学習している。その中で、資料を読み取り、そこから疑問を見つけたり、わかったことをまとめたりしている。また、わかったことから、自分なりの考えを発表するようになってきている。調べることには意欲的に取り組み、疑問を見つけたり、自分の生活と関連付けたりすることもできるようになってきているが、自分の考えをまとめる時には、自分が調べたことにとらわれる児童もいる。

昔の道具に関連してアンケートをした結果、テレビ等で見たことのある児童や実際にランプなどを使ったことのある児童はいる。しかし、その背景にある人々の知恵や願いに気づいている児童はいない。また、家庭で現在も使われている昔の道具は、白熱電球と答えた家庭が2件ある。現在でも児童全員、祖父母と同居しており、昔の話を聞くことができると思われる。曾祖母と同居している児童が1人いる。

子どもたちは、10名という少ない人数ではあるものの、お互い教え合いながら学習している。調べる力は徐々についてきてはいるが、調べたことをもとにして、考えをまとめることが困難な場合が見られる。

(3) 指導にあたって

本単元は、昔から使われている道具や文化財、地域の移り変わりについて調べる活動を通して、人々のくらしや知恵、人々の願い、生き方に触れることをねらいとしている。

児童にとっては、初めての歴史単元である。それだけに、歴史に対して興味・関心を抱かせることを第一に考えたい。具体的には、昔の道具を調べたり、わかったことをまとめたりする活動を通して、昔の人々の願いや知恵、生活を高めるたくましさに気付かせ、今後の歴史的なものの見方、考え方の基礎となる力を育てたい。そのため、昔の道具を使った体験的な活動を豊富に取り入れると共に、自分の考えを書いたり発表したりする場を常に設けることで、ねらいに迫っていききたい。

本校の研究に関わっては、少人数指導の利点である活動時間の確保を生かし、体験的な活動の時間を保障していききたい。また、個人やグループなど多様な学習形態を自己解決の時間・場に設定するほか、学んだことを共有し合う学び合いの時間・場を設定する。さらに、導入時に地域の資料や実物を提示するなど資料提示の仕方を工夫し学習の見通しを持たせ、終末時には、分かったことや次に調べたいことを書くことで学習意欲を高めていききたい。単元の最後には、学習したことを振り返り、自分と地域の関わりを考えさせる時間を持ち、地域社会で活動する大切さに気付かせていききたい。

社会科に関わっては、児童一人一人の生活経験や知識・技能に対応するように、昔の道具などの資料の準備をすることで資料活用能力を高めたい。また、互いに考えを発表し合いおのおの考えを深めさせると同時に、根拠を明確にした発表を求めていくことで社会的思考を深めていききたい。

3 単元の目標

昔のくらしに使われていた道具や地域に伝わる文化財や年中行事を調べ、地域の人々のくらしが変わっていたことや当時のくらしにおける人々の知恵、今に伝わる願いを考えることができる。

関心・意欲・態度

- ・古くから残るくらしにかかわる道具や文化財・年中行事に関心をもち、地域の人々のくらしの変化や知恵、文化財・年中行事に込められた地域の人々の願いを意欲的に調べようとする。

社会的な思考・判断

- ・調べたことをもとに、人々のくらしの変化や知恵、文化財・年中行事に込められた地域の人々の願いを考えることができる。

観察・資料活用の技能・表現

- ・古くから残るくらしにかかわる道具や、それを使っていたころのくらしの様子、地域に残る文化財・年中行事を、実際に道具を調べたり地域の高齢者や父母から聞き取り調査をしたりして、具体的に調べることができる。

知識・理解

- ・地域の人々のくらしが変化してきていることや、人々がよりよい暮らしを願ってきたこと、文化財や行事など、今もなお大切に受け継がれていることがわかる。

4 指導計画と評価規準（13時間）

過程	時	目標	主な活動（ ）と評価規準（・）	資料等
つかむ	1	・洗濯板の使い方を予想し、昔の道具に興味を持てるようにする。	洗たく板の使い方を予想する。 ・道具をよく見て、洗濯板からわかったことをプリントに書いている。（関・意・態）	・洗濯板 ・たらい
	2	洗濯板を使って洗濯する活動を通して、生活の違いに気づき、昔の暮らしに関心を深めることができるようにする。	洗濯板を使って洗濯をする。 ・生活の違いに気づき、昔の暮らしを調べようとしている感想を書いている。（関・意・態）	・洗濯板 ・たらい ・ゲストティーチャー
	3	・学習課題を作り、学習計画を立てることができるようにする。	学習計画を立てる。 ・今までの学習を整理し、昔の道具を選び、当時の暮らしを調べることのできる計画を立てている。（思・判）	・プリント
ふかめる	4 5	・祖父母の時代の昔の道具を調べることができるようにする。	祖父母のころの道具を実際に使い、当時の生活を調べる。 ・昔の道具にたくさん触れて調べている。（関・意・態） ・道具を調べ、ゲストティーチャーの実演や話から、当時の生活を調べている。（技・表）	・カード ・行灯、ランプ ・七輪 ・火鉢 ・ゲストティーチャー
	6	・父母の時代の道具を調べ、祖父母の時代との違いに気付くことができるようにする。	父母の時代の道具を調べ、祖父母の時代と比較する。 ・昔の道具にたくさん触れて調べている。（関・意・態） ・父母と祖父母の暮らしの違いに気付いている。（思・判）	・カード ・洗濯機 ・電球、蛍光灯 ・ガスコンロ ・ストーブ
	7	・調べたことを発表し、昔の人々がどのような暮らしをしていたか、調べたことをまとめることができるようにする。	調べたことを発表し合い、当時の生活をまとめる。 ・カードや実物を見せながら発表している。（技・表） ・新たに分かったことを、ノートにまとめている。（技・表）	・カード
	8	・祖父母の時代と父母の時代の暮らしの変化と知恵を理解することができるようにする。	大迫中学校の資料室を見学し、ゲストティーチャーから、当時の話を聞く。 ・当時の生活を比べ、暮らしの変化や知恵を考えている。（思・判）	・大迫中学校資料室見学 ・写真、 ・ゲストティーチャー

			・地域のくらしが変わってきたことを理解している。 (知・理)	
	9	・神楽やあんどんまつりを伝えている地域の方の話を聞き、地域の人々の願いに気付くことができるようにする。	神楽を伝えている地域の方の話を聞き、地域の人々の願いを理解する。 ・地域の方に、聞きたいことをインタビューしている。 (技・表) ・地域の方の願いを理解している。(知・理)	・ゲストティ・チャー ・写真
	10 11	・昔の道具や昔の様子、あんどんまつりや神楽について地域の人たちへの聞き取り調査等をまとめ、絵年表に表すことができるようにする。	今までつくってきたカードをまとめ、絵年表を作る。 ・絵年表を意欲的に作っている。 (関・意・態) ・学習してきたことを整理して、絵年表をつくっている。 (技・表)	・絵年表
ま と め	12	・絵年表を見て、地域の人々のくらしの様子の移り変わりや知恵、願いを考え、話し合うことができるようにする。	絵年表を見て、くらしの移り変わりや人々の知恵や願いをまとめる。 ・絵年表を見て、くらしの移り変わりや人々の知恵や願いをまとめている。(思・判)	・絵年表
る	13	・お礼の手紙を書き、学習を振り返ることができるようにする。	学習を振り返り、お礼の手紙を書く。 ・くらしの変化や知恵、地域の願いから、自分にできることを考えている。(思・判) ・学習してきたことをお礼の手紙にまとめている。 (知・理)	

5 本時の指導

(1) 目標

・洗濯板を使って洗濯する活動を通して、生活の違いに気づき、昔のくらしに関心を深めることができるようにする。

(2) 授業仮説

洗濯板とたらいを学びの特性に応じた2人1組に用意して、活動する場を設定したり、わかったことを交流する学び合いの場を設定したりすることにより、当時のくらしが身近になり、また、学習の最後に振り返りの場を設定することで、昔のくらしへの関心が高まるであろう。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点(少人数を生かした指導)	資料等
つ か む	1 前時の学習活動を想起する。 ・洗濯板を調べたことを想起する。	・前時の学習活動を振り返り、活動を明確にしていく。	

7 次時の学習内容について知る。	・次時は、調べたいことを整理していくことを告げる。	
------------------	---------------------------	--

(4) 評価規準と具体の評価規準

・生活の違いに気づき、昔のくらしを調べようとしている感想を書いている。((関心・意欲・態度))

A プリントに、洗濯板の使い方、おじいさん・おばあさんの時代のくらしが不便だったこと、さらに当時の道具や生活に関係することなど、調べたいことを書いている。

B プリントに、洗濯板の使い方、当時の生活に関係した調べたいことを書いている。

「努力を要する児童」への支援

驚いたことや、思ったことを想起させ、心に残っていることを書かせる。

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">昔の洗たくの仕方を知ろう。</div>			
<p>必要なもの</p> <p>洗たく板</p> <p>たらい</p> <p>石けん</p> <p>水</p>	洗たくの仕方		わかったこと
	おき方 写真	おき方 ななめにおき、たらいにかける。	<ul style="list-style-type: none"> ・大変だった ・苦労していた ・昔は不便 ・時間がかかる
	洗剤のつけ方 写真	石けんのつけ方 洗たく物につける。	調べたいこと
	洗い方 写真	洗い方 上から下へ力を入れてこする。	<ul style="list-style-type: none"> ・むかしのくらしはどうなっていたのか。 ・むかしの道具は、ほかにどんなものがあるのか。 ・おじいさん、おばあさんの苦労やよろこびは、どのようなものか。